



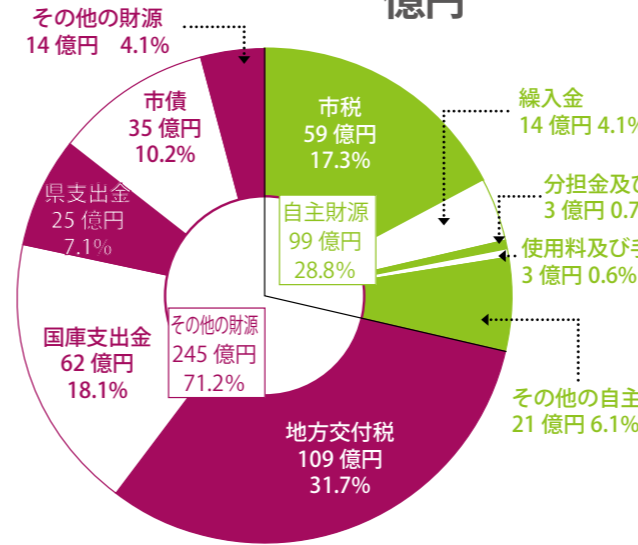
# 平成 29 年度決算状況

# お知らせします むつ市の財政状況

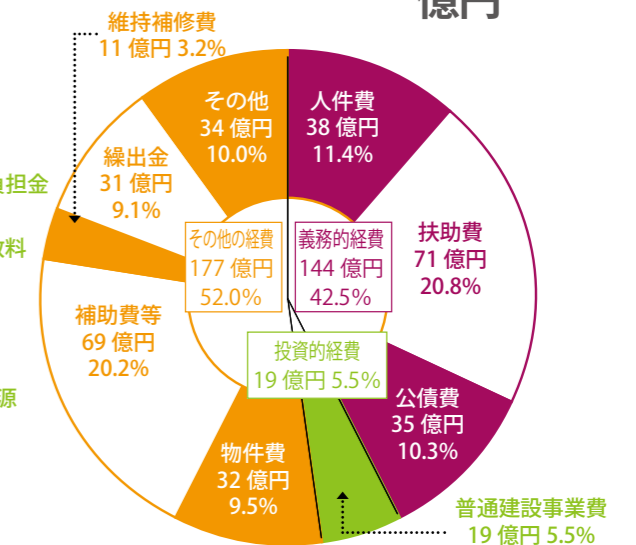
平成 29 年度のむつ市一般会計等の決算が、むつ市議会第 237 回定例会において承認されましたので、決算のあらましと財政状況についてお知らせします。

一般会計の歳入は、対前年度比 0.5% 減の 344 億 577 万円、歳出は対前年度比 0.8% 減の 340 億 168 万円となり、これから翌年度への繰越財源 3,857 万円を差し引いた実質収支額では、3 億 6,552 万円の黒字を確保することができました。

## 歳入 344 億円



## 歳出 340 億円



**自主財源**

- 市税 市に納められた税金
- 繰入金 主に基金(むつ市の貯金)を取り崩したお金
- 分担金及び負担金 事業の受益者が受益の程度に応じて払うお金
- 使用料及び手数料 市の施設の利用の際に払うお金など
- その他自主財源 財産の売却収入やみなさまから頂いた寄付金など

**義務的経費**

- 人件費 職員の給与や市議会議員の報酬等を支払うためのお金
- 扶助費 生活保護、児童福祉、障がい福祉等、市民のみなさまの暮らしを援助するためのお金
- 公債費 借金を返済するためのお金

**投資的経費**

- 普通建設事業費 学校や道路等の公共施設を整備するためのお金

**その他の財源**

- 地方交付税 みなさまが国に納めた所得税などの税金の中から、財税状況に応じて国から交付されるお金
- 国庫・県支出金 国・県から特定の目的のために交付されるお金
- 市債 事業実施のために、国や金融機関から借り入れたお金
- その他 みなさまが国・県に納めた消費税や自動車税などの税金の一部から、市に対して交付されるお金など

**その他の経費**

- 物件費 光熱水費、消耗品費など、施設を維持するためのお金
- 補助費等 団体や市民のみなさまの活動を支援するためのお金
- 維持補修費 道路や施設を維持補修するためのお金
- 繰出金 国民健康保険会計など特別会計へ支出するためのお金
- その他 基金へ積立て、関連団体への投資、出資、貸付するためのお金

各会計決算【表1】

会計名	歳入	歳出	歳入歳出差引額	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支額
一般会計	344 億 577 万円	340 億 168 万円	4 億 409 万円	3,857 万円	3 億 6,552 万円
特別会計	162 億 5,218 万円	161 億 1,906 万円	1 億 3,312 万円	0 万円	1 億 3,312 万円
国民健康保険特別会計	74 億 5,262 万円	74 億 9,336 万円	△ 4,074 万円	0 万円	△ 4,074 万円
後期高齢者医療特別会計	5 億 949 万円	5 億 423 万円	526 万円	0 万円	526 万円
下水道事業特別会計	12 億 9,287 万円	12 億 9,287 万円	0 万円	0 万円	0 万円
公共用地取得事業特別会計	1,473 万円	1,473 万円	1 万円	0 万円	1 万円
介護保険特別会計	63 億 6,681 万円	62 億 38 万円	1 億 6,643 万円	0 万円	1 億 6,643 万円
魚市場事業特別会計	6 億 1,566 万円	6 億 1,349 万円	217 万円	0 万円	217 万円

企業会計決算

会計名	水道事業収益	水道事業費用	収支差引額	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支額
水道事業会計(税抜)	16 億 8,845 万円	15 億 6,535 万円	1 億 2,310 万円	0 万円	1 億 2,310 万円

決算の詳細は、市ホームページに掲載しています。 財務課財政担当 22-1111 内線 2323

### 健全化判断比率【表2】

	29 年度 決算	28 年度 決算	早期健全化 基準	財政再生 基準
実質赤字比率	—	—	12.64%	20.00%
連結実質赤字比率	—	—	17.64%	30.00%
実質公債費比率※	17.1%	17.3%	25.00%	35.00%
将来負担比率※	169.0%	174.3%	350.00%	基準なし

※参考(平成 29 年度)  
 実質公債費比率 17.1% (全国 1,741 市町村中 ワースト 17 位)  
 将来負担比率 169.0% (全国 1,741 市町村中 ワースト 19 位)  
 ※表中「—」は、実質赤字、連結実質赤字がないことを示しています。

### 各会計の資金不足比率【表3】

	資金不足 比率	経営健全 化基準
下水道事業特別会計	—	20.00%
魚市場事業特別会計	—	20.00%
水道事業会計	—	20.00%

※表中「—」は、資金不足がないことを示しています。

### 収支見込額の推移【表4】

年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度
収支見込額	3.99 億円	5.18 億円	2.88 億円	▲ 2.06 億円	▲ 9.47 億円

「用語解説」  
 ◆実質赤字比率 一般会計等の赤字が、標準的な収入に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。  
 ◆連結実質赤字比率 むつ市の全ての会計における赤字が、標準的な収入に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。  
 ◆将来負担比率 一般会計等が将来にわたり負担を求められる負債額が、標準的な収入に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。  
 ◆資金不足比率 各公営企業会計において、資金不足額がその事業規模に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。

**堅実に黒字達成するも 依然として厳しい財政状況**

実質収支では 3 億 6,552 万円の黒字となり、前年度の実質収支 2 億 9,919 万円を差し引いても、単年度収支で 6,633 万円の黒字となりました。

一方、自治体財政の健全性を判断する「健全化判断比率」では、本市の財政状況は全国 1,741 市町村中、実質公債費比率ではワースト 17 位、将来負担比率ではワースト 19 位で、依然として厳しい財政状況にあります。

全年度を判断するために設けられた健全化判断比率【表2】の算定と公表が義務付けられています。健全化判断には、4 つの比率が用いられ、そのうちの指標が 1 つでも『早期健全化基準』を超えるると、改善に向けた基本方針や具体的な方策等を盛り込んだ財政健全化計画の策定が義務づけられます。

また、水道事業会計などにおいて資金不足比率【表3】が『経営健全化基準』を超えると、経営健全化計画の策定が義務づけられます。平成 29 年度は、全ての比率で基準を下回っています。

対する債務負担行為の履行に注意し、基準を下回る比率を堅持し、資金不足を生じさせない財務体制を継続していきます。

**財政中期見通し 2018**

持続可能な財政運営には、長期的な視点が必要ですが、正確性のある現実的な見通しも必要となります。

8 月に作成した『財政中期見通し 2018』において、今後 5 年間の収支見込み額を試算したものが【表4】です。

市民福祉の向上や地域経済の活性化を図る施策の展開は不可欠です。

そのためには、各種施策の改善や改革を含めた行政改革も間断なく進め、財政の中期的な見直しを前提とした効率化、効果

**持続可能な財政運営を 図るために**

財政健全化への目標とその達成のための重点事項を掲げ、市民の皆様からの御理解と御協力を得ながらこの取り組みを着実に推進し、将来世代に過度な負担を残さない持続可能な財政運営を目指します。

